

# 無限迷宮物語



夏色ノ箱



夢

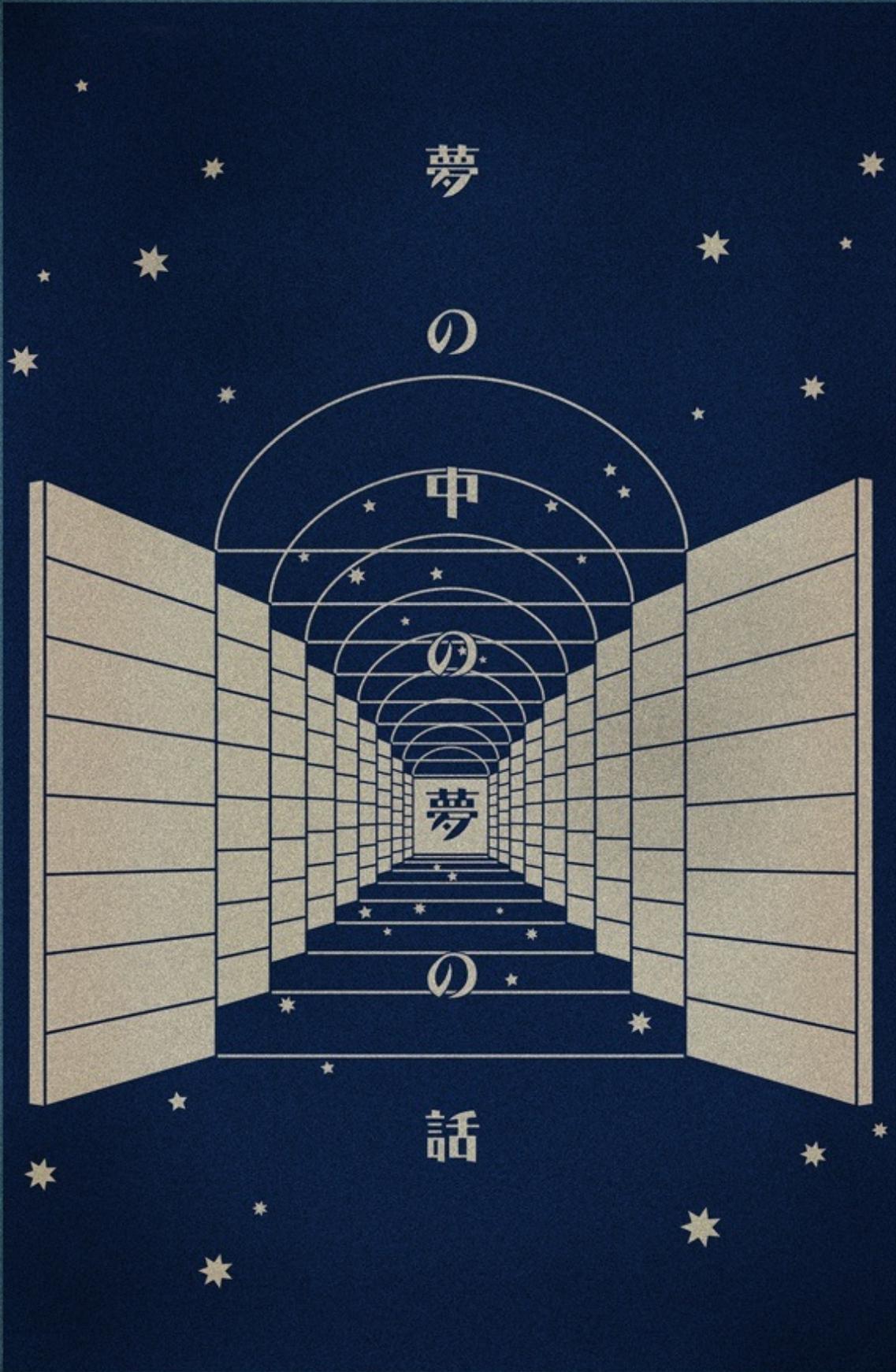
の

中

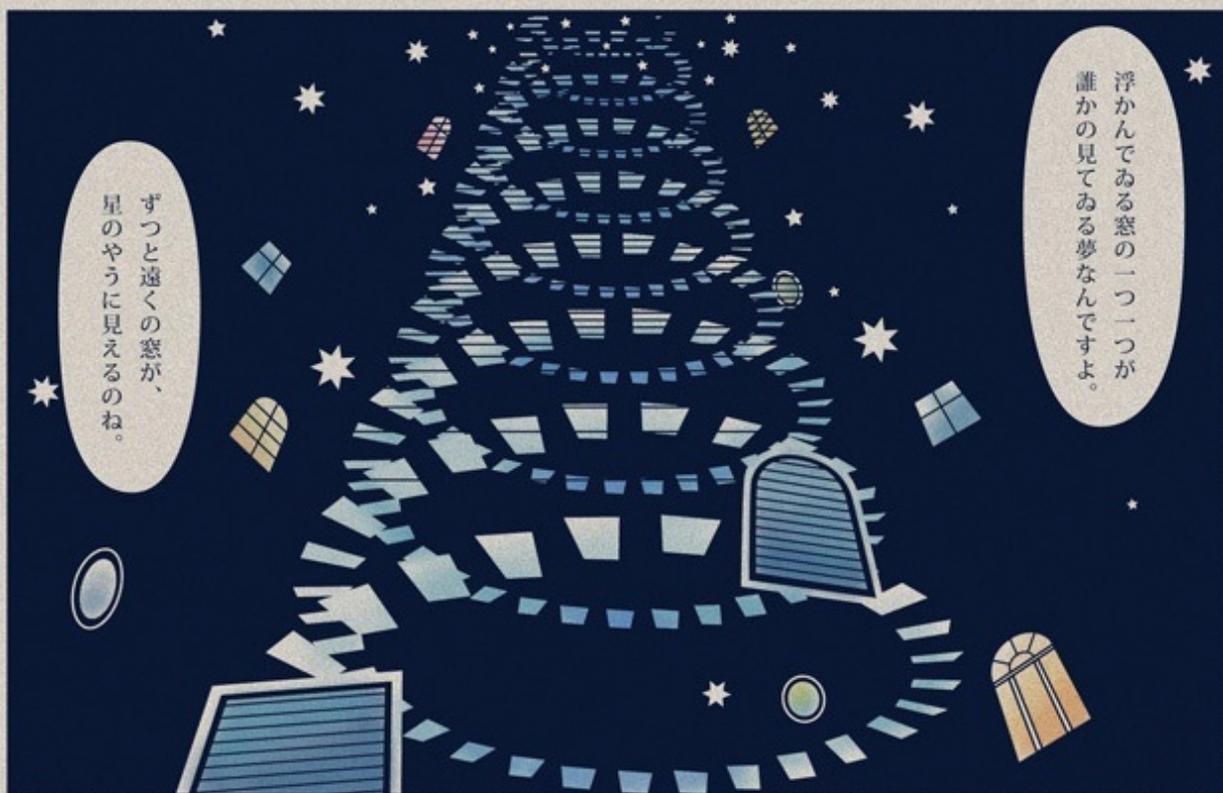
夢

の

話









良いですよ。



もう行つてしまふなんて  
なんだかさみしいわ。

ねえ、何か歌を  
歌つてくださる？



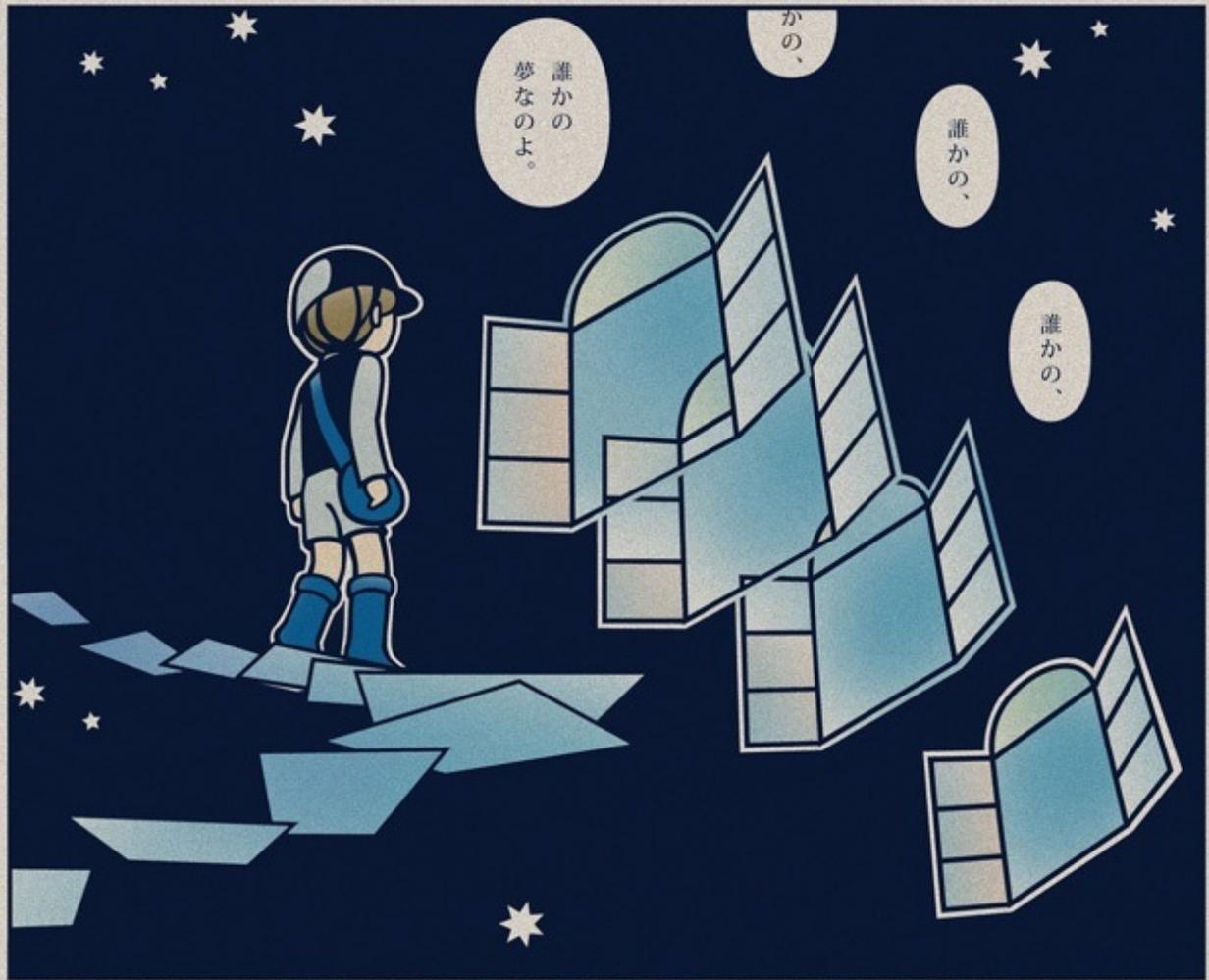
硝子の小鳥よ  
かわいひ小鳥  
青い小箱にしまつて  
おいた。

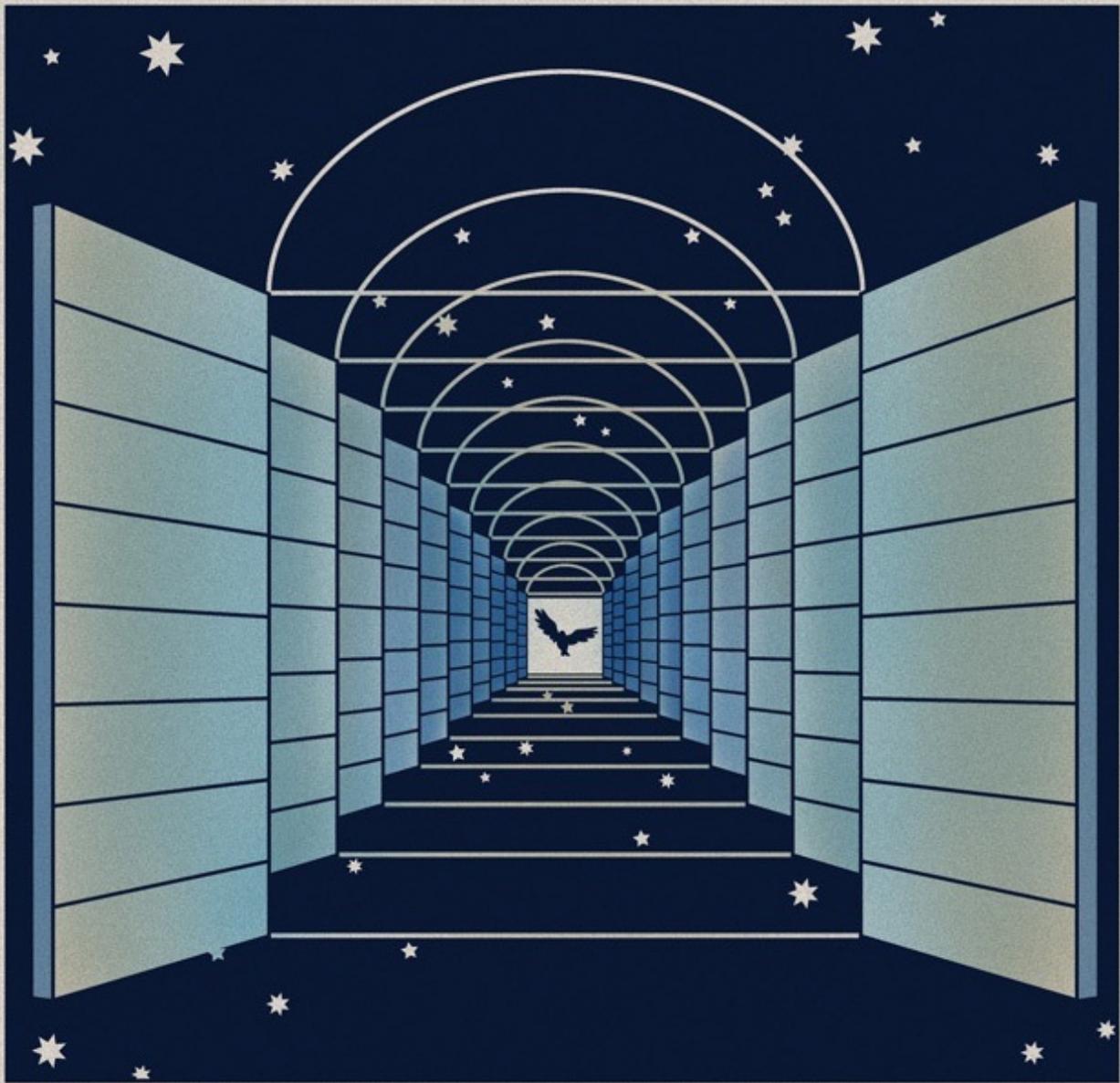


ある夜小鳥は飛び出した。  
桜色した浮模様、  
桃色硝子の羽が舞ふ。

そして夜空に消えてしまつた。  
星に溶けて見えなくなつた。

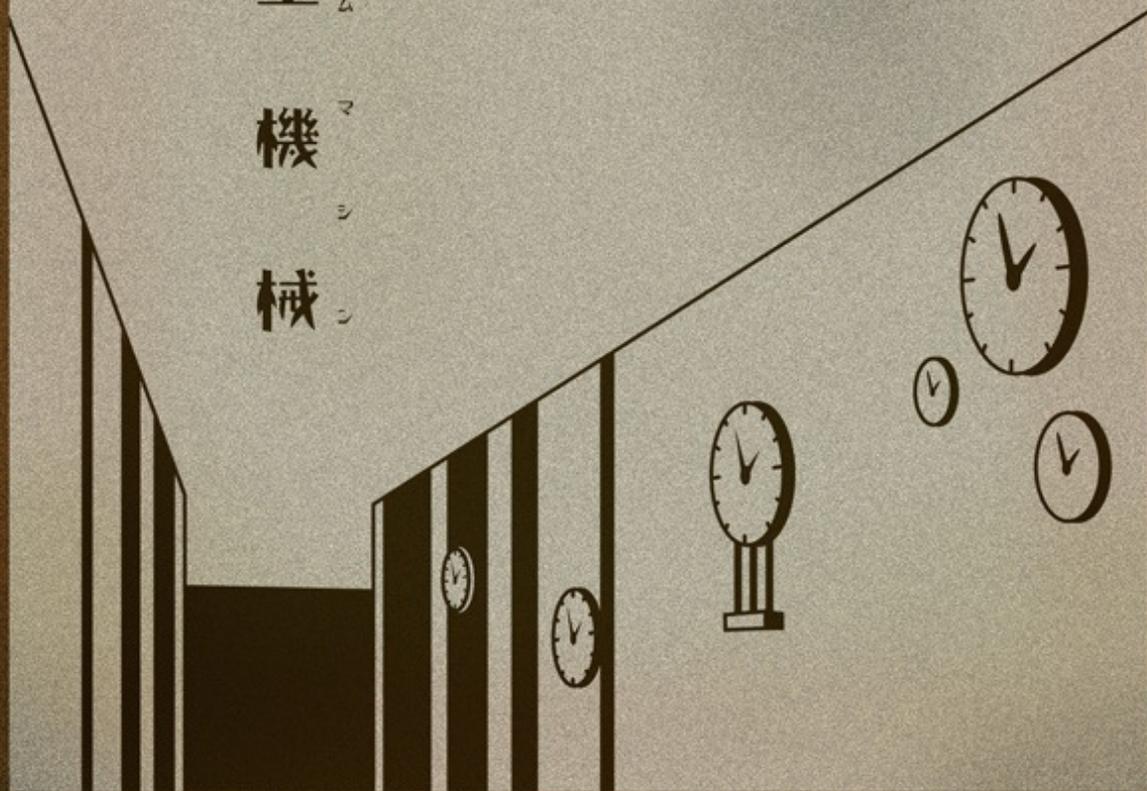


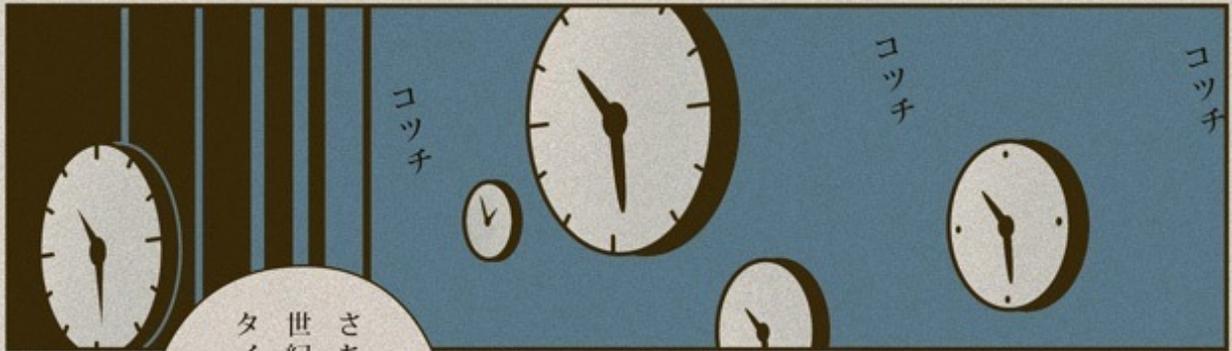




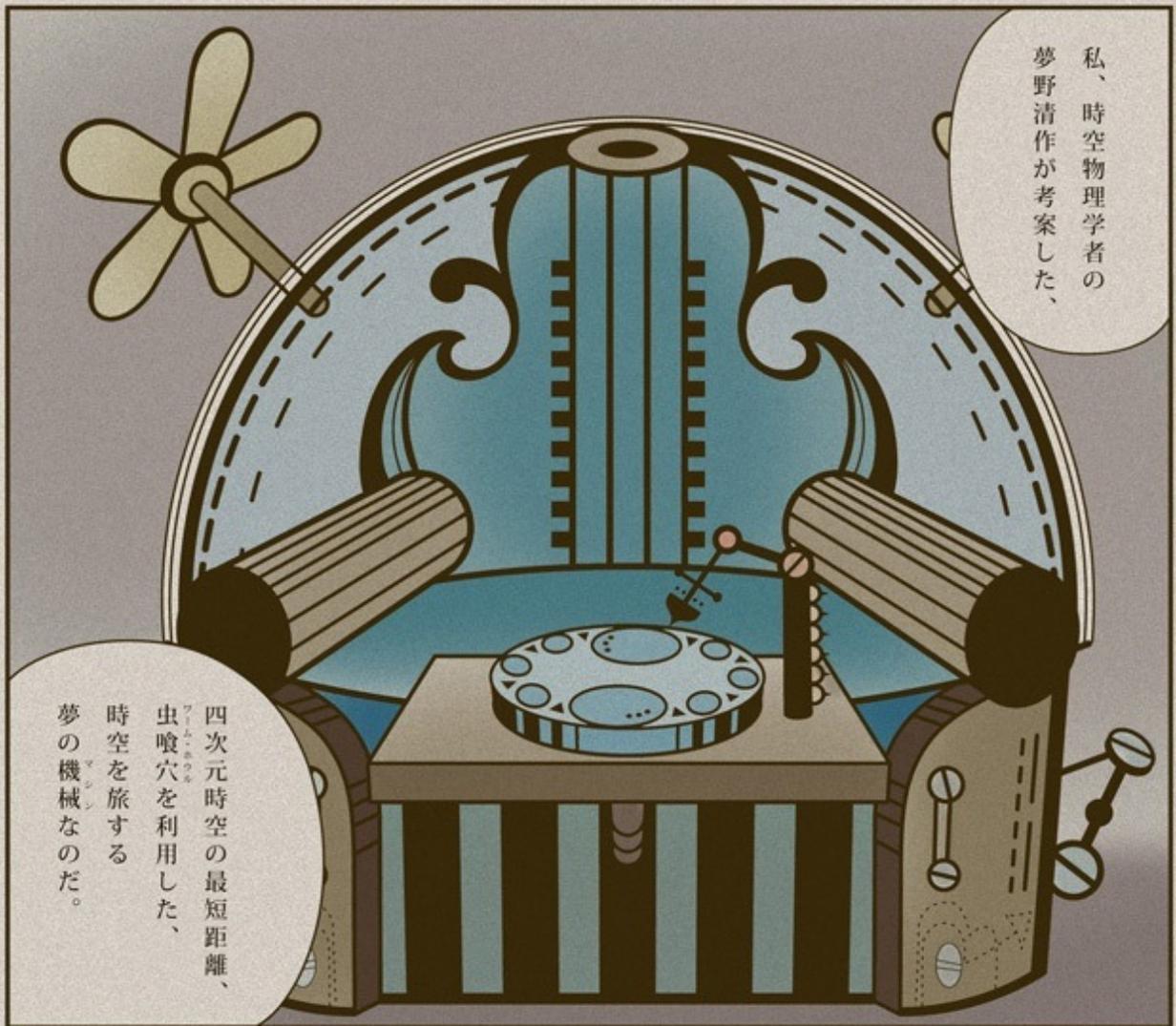


ネ  
ジ  
式  
時<sup>ワ</sup>  
空<sup>イ</sup>  
機<sup>ム</sup>  
械<sup>マ</sup>  
械<sup>シ</sup>  
械<sup>ン</sup>



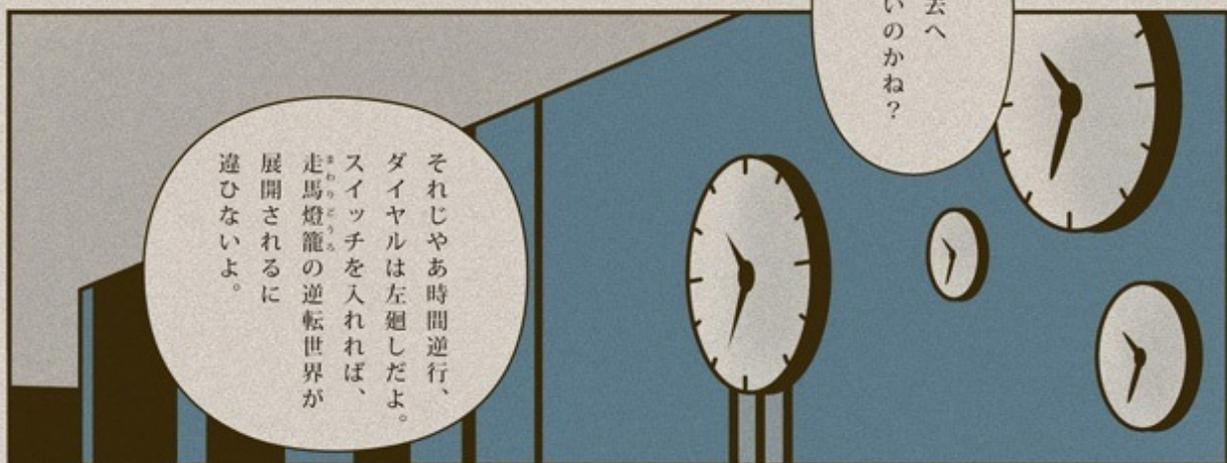


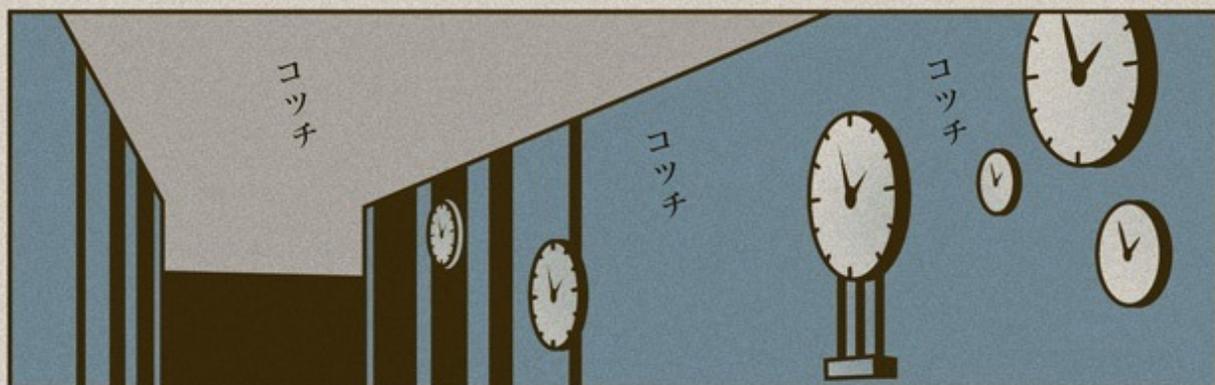
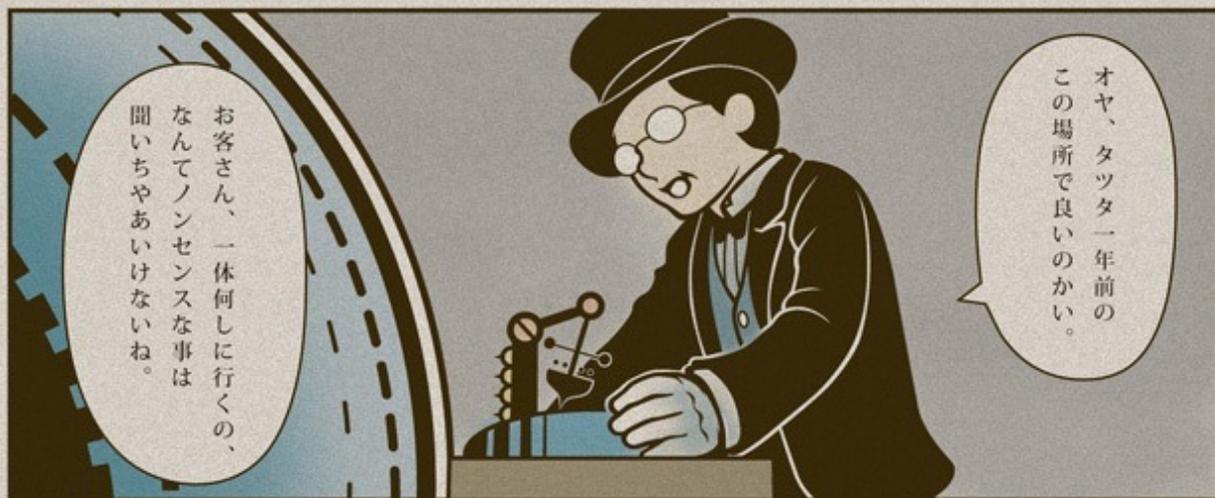
さあご覧あれ！  
世紀の大発明、これが  
タイム・マシンだよ！



私、時空物理学者の  
夢野清作が考案した、

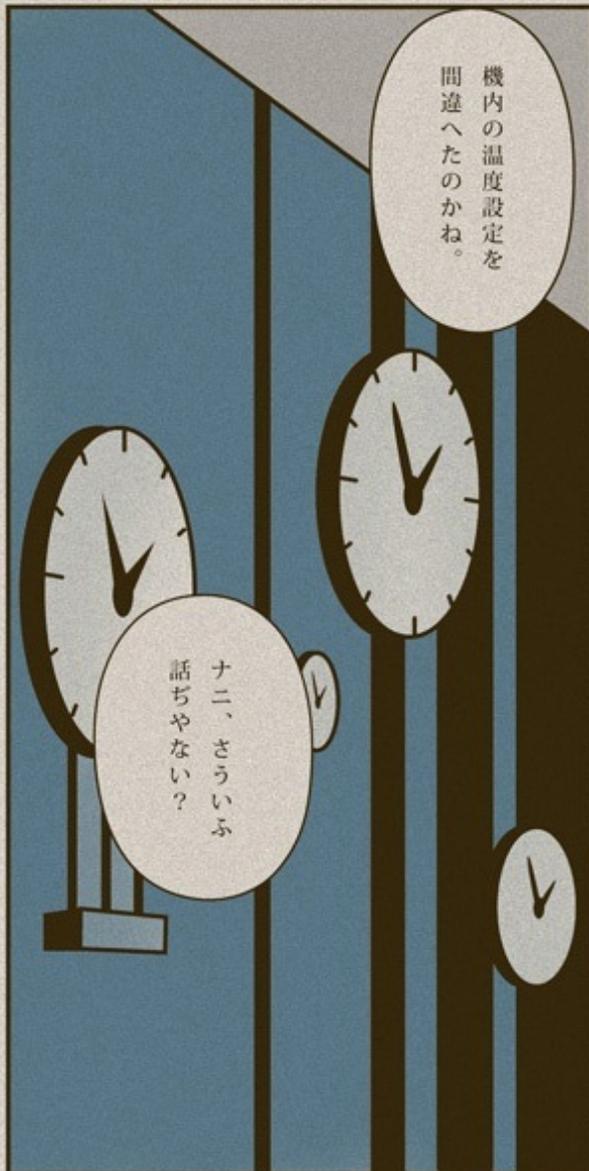
四次元時空の最短距離、  
虫喰穴ワームホールを利用した、  
時空を旅する  
夢の機械なのだ。





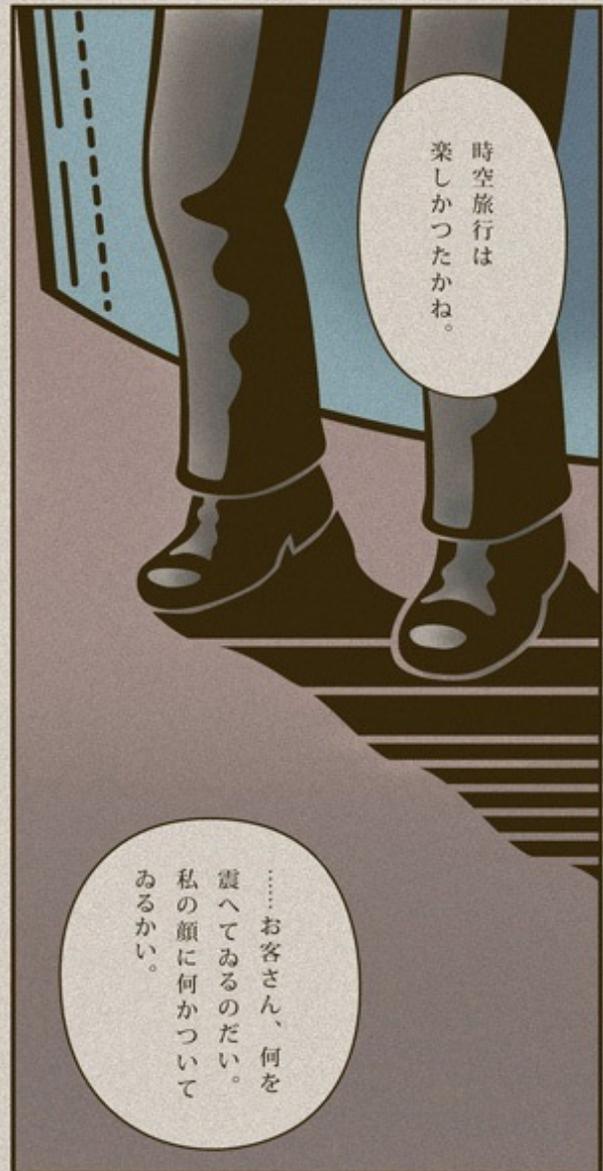


オヤお客さん、  
お帰りかい。



機内の温度設定を  
間違へたのかね。

ナニ、さういふ  
話ぢやない？



時空旅行は  
楽しかったかね。

……お客さん、何を  
震へてゐるのだい。  
私の顔に何かついて  
ゐるかい。

なんだつて？  
一年前に戻って  
私を殺してきた？

コツチ

コツチ

それぢやあ、  
今話してゐる  
私は何なのだい？

コツチ

コツチ

# The Infinite Story

---



**T H E  
INFINITE  
S T O R Y**

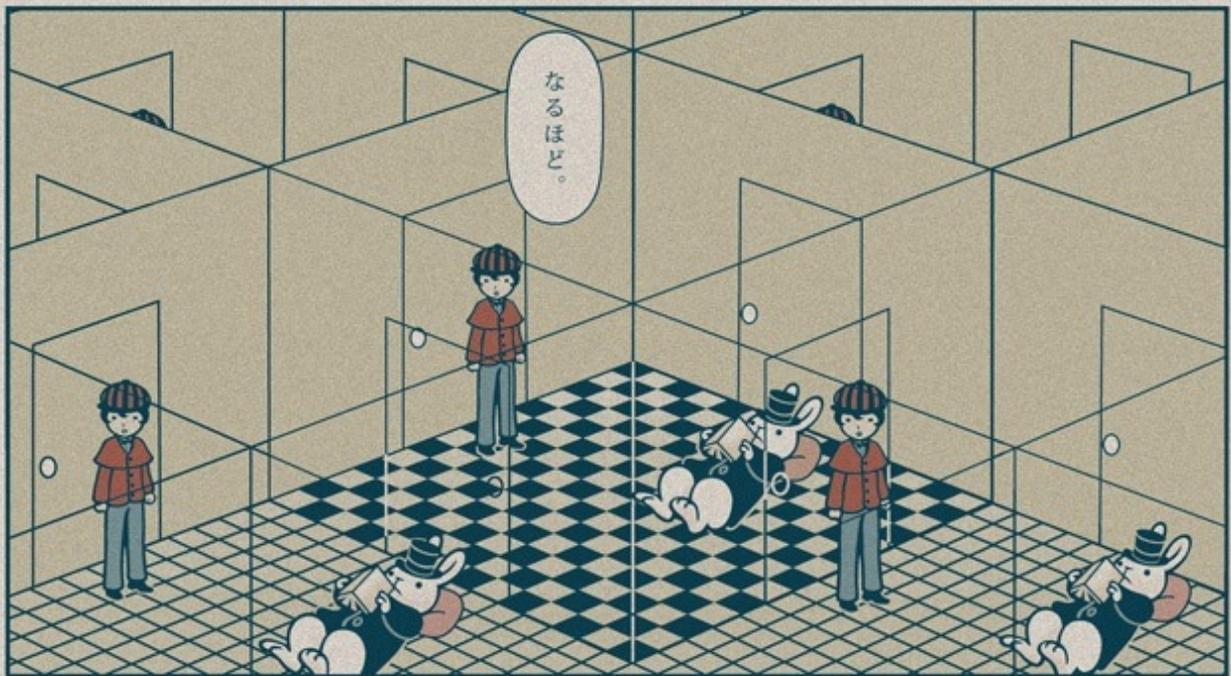


ある日扉を開けると、そこは  
チェスボードのやうな白黒の  
床のある部屋で、見知らぬ兎が  
読書をしてゐた。

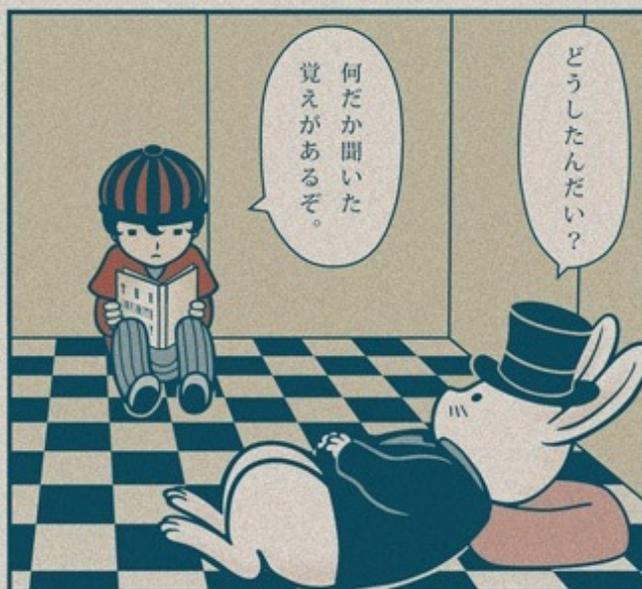


えっ。

君は一体、  
どつから入つて  
きたんだい？









ある日扉を開けると、そこは  
チェスボードのやうな白黒の  
床のある部屋で、見知らぬ兎が  
読書をしてゐた。



えっ。

君は一体、  
どつから入つて  
きたんだい？

## 無限迷宮物語

<http://p.booklog.jp/book/28618>

著者：夏色ノ箱

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/natsuironohako/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/28618>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/28618>